

## 活動報告：ぶんぶんひろば

### 1 活動のねらい

ぶんぶんひろばの活動は平成22年のセンター開設以来8年が経過した。当初設定したぶんぶんひろばの活動のねらいは3つである。1つ目は、就学前の子どもとその家族への子育て支援の場の提供、2つ目は、本学で学ぶ学生の教育の場としての活用、3つ目は研究活動である。近年、本学は「対人援助のプロを育てる」というコンセプトのもとに日々の教育を行っている。このセンターが位置する広島 長東キャンパスには、大学の学芸学部(2学科)、大学院教育学研究科及び短期大学の3学科があり、学生の多くは教育職、保育職、栄養士等の対人援助職を目指しており、2つ目のねらいを達成するために、本センターは重要な施設となっている。また地域貢献も本学教育の特色の1つである。週2回子育て中の家族にひろばを開放しており、子育て家族の姿を、キャンパス内で目の当りにすることは、学生たちにとってこの上なく良い体験となっている。それぞれの学科の目標を達成するためにこのセンターの存在が役立っているといえる。ねらいの3つ目は研究であるが、なかでも子育て支援に関する研究は昨今の社会状況から必要とされ、急がれるものである。各学科から選出された教員はそれぞれの研究課題を持ちより、この領域の研究が進むよう協働して取り組んでいる。

### 2 活動の内容

#### (1) 地域貢献としての活動

29年度の実施回数は70回であった。参加の状況を表1に示す。のべの参加人数は1732人であり、平均参加組数は11.2組であった。通常開催のぶんぶんひろばとは別に、音楽会や離乳食の講習会、公開講座などがあり、それらを合計すると、2228人の参加となる。参加者の言葉によると、転勤直後で知り合いがいなかったときに助かった、母親

同士が情報を交換できた、夏の水遊びがありがたかった、子どもの発達に合わせた玩具の体験ができて良かった、食堂が使えるのありがたいなどの意見があった。また、要望としては、毎日開催してほしい、一回の開催時間を長くしてほしい、大学が休業中も開催してほしい等があった。

#### (2) 教育における活用

週2回のひろば以外に、授業での使用は次のようであった。前期には演奏活動で6回(音楽学科)、造形表現で2回(子ども学科)、後期には、演奏活動で8回(音楽学科)、保育実践演習で2回(子ども学科)、栄養指導各論実習で2回(短大:食物栄養学科)栄養指導各論で1回(食物栄養学科専攻科)、幼児英語指導法で1回(短大:保育学科)の利用があった。また、総合子ども学Ⅱ(子ども学科)では、子育て支援の場所として、子育て支援のための遊具や設備面の配慮を学び、「初めて体験した」「有意義だった」との感想が得られた。今年度初めての試みとして、保育学科では「赤ちゃんふれあい体験」(1年生)を実施した。

「保育技術サークル」は子ども学科と短大保育学科のメンバーから構成されている。手遊びと絵本の読み聞かせ活動が火曜日の昼休みに継続的に行われた。

#### (3) 研究への活用

平成28年度、広島文化学園大学は文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に選定され、研究が続いている。テーマは「対人援助システムの構築と効果に関する検討」であり、今年度は5年計画の2年目の研究が進められた。1年目のニーズ調査の実施に続き、今年度は「子育てカフェ」を近隣のスーパーマーケットで開催した。相談内容の設定や広報活動に課題が残った。今後さらに、子育てをスムーズに進めるための、子育て家庭への支援プログラムを作ることや、支援者の養成を目指している。

(文責：短期大学 保育学科 田頭 伸子)

表1 平成29年度実施回数と利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
実施回数	6	8	8	7	3	3	9	7	6	7	6	70
利用組数	61	89	83	105	63	43	103	75	41	52	68	783
平均利用組数	10.2	11.1	10.4	15.0	21.0	14.3	11.4	10.7	6.8	7.4	11.3	11.2
利用者数	子ども	68	101	90	124	82	48	124	94	48	70	939
	大人	61	89	84	107	64	43	103	76	42	55	793
	合計(人)	129	190	174	231	146	91	227	170	90	125	1732